

## 【ライフスタイル賞】

寺内 昇さん、寺内 郁子さん（北海道北竜町）

### 【医師から宣告され仕事人間を改める】

「残念ですが、アルツハイマー型認知症です」2009年9月、53歳の昇さんは、医師から若年認知症と告げられました。アリセプトを服用しつつ、勤務先の上司・部下に若年認知症であることを告白し、朝から晩まで連続していた会議を全てキャンセルし、仕事量を減らし、記憶力・判断力は飛躍的に改善しました。



### 【移住し元気に暮らしている人の話を聞いて北竜町へ】

インターネットで若年認知症について色々調べていく中で、全国で活動を展開する若年認知症家族会「彩星(ほし)の会(本部・新宿区)」干場功代表との出逢いがあり、病やご家族の大変さ等のお話を伺いました。干場代表の出身である北海道北竜町では元町長が若年認知症を発症し、自叙伝スタイルの書籍出版が話題になり、また町内には、ボランティア団体・若年認知症家族会「空知ひまわり」が設立されていることや当時、干場代表のお力添えで東京からアルツハイマー型若年認知症の家族が北竜町に移住した人が元気に生活されていることも知りました。

### 【夫婦で役割分担してまちの情報発信を担う】



2010年10月、役場からの依頼を受けて町の総合情報サイト「北竜町ポータル」を開設することになりました。サイト構築は初経験、独自ドメインの取得から試行錯誤を繰り返す。夫婦で妥協することなく、内容、デザイン・色合い等すべてについて、とことん話し合い8か月をかけた2011年7月、Google Site を使った北竜町ポータルをオープンさせました。そして、町のイベント、農家の栽培、町民のお話等の様々な取材を重ねて、夫婦で役割分担して取材、写真撮影、記事作成、デザイン、情報発信に取り組んでいます。毎年開催される「ひまわりまつり」のひまわり開花状況を毎日写真撮影し、関係イベントの情報を全国に向けて発信し、アクセス数増加と共に2017年度のひまわりの里入り込み客数が過去最高を記録(35万6千名)になりました。また、北竜町民の方々からお話を聞き、取材を重ね約1700人の町の人口のうち、369人以上の北竜町民を紹介しました。

### 【ふるさと納税額急上昇。認知症も改善】

北竜町ポータル開設から2019年度まで累計訪問者数は200万人、閲覧ページ数は465万ページビュー、掲載記事も約5千件となりました。北竜町のブランド米「ひまわりライス」など、生産者等の北竜町への熱い想いと熱い活動を伝えて、返礼品の「ひまわりライス」を中心に、ふるさと納税額は、5年間連続3億円を超え2020年は6億円に達する人気です。現在は、「認知症は否認」という、北海道の専門医の診断書に基づき活動中です。



### ■写真の説明

(写真上)寺内 昇さん郁子さん (写真中央・左)ハッピーパワー溢れる素敵なひまわりさん (写真中央・右)色彩が織り成す朝の風景

■連絡先 〒078-2512 北海道雨竜郡北竜町字和55-17  
☎ 080-5424-5514

過労による若年性認知症と診断され、離職し、住み慣れた東京を離れ、認知症治療のため、北海道に移住。認知症の克服と併せて、夫婦二人三脚でこれまでの技能・技術を活かした町の PR ポータルサイト制作、情報発信等を積み重ね、ふるさと納税倍増等に大きく貢献した。地域住民と交わり、地域に溶けこんだ生活は感動的で、同じような境遇の人々に大きな元気を呼び起こすと高く評価されました。